

テックドクターによる現地診断 (佐賀県唐津市和多田地先)

令和3年12月22日に国道202号50k000付近(唐津市和多田地先)の切土法面・自然斜面を対象に学識経験者及び佐賀国道事務所職員による現地診断を実施した。対象箇所は老朽化した長大切土法面からのコンクリート片の剥落、背後の自然斜面からの土砂流出等が懸念される箇所である。当該診断では、当該箇所の現時点の健全性、将来の安定性及びそれらを踏まえた対応策等について、現地状況を詳細に把握するとともに、学識経験者等による有意な意見を聴取し、防災・維持管理上の課題解決の場とした。

出席者:福岡大学 佐藤教授

● テックドクターによる診断

【法面・斜面について】

- ・法面の老朽化に伴い、コンクリート擁壁上に位置するプレキャスト法枠工のコンクリート板に浮上がりや破損が複数箇所で見られる。また、水路工や張コンクリートにおける破損も認められる。
- ・コンクリート擁壁の水平打ち継ぎ目からは湧水が認められる。流末はなく、排水は不良となっている。樹根の伸長により、歩道の路面に凹凸がみられ、水溜まりを形成している。
- ・自然斜面には表層崩壊跡が複数認められ、崩壊堆積物が斜面に残存している。

【対策方針等について】

- ・法面保護工の修繕、落石防護柵の設置、湧水箇所における排水施設の設置が必要である。
- ・法面変状が著しいことや崩壊跡地が分布することなどから、「要対策箇所」として新たにカルテを作成し点検を実施していく。



テックドクターによる現地診断 (佐賀県唐津市半田地先)

令和3年12月22日に国道497号36k600付近(唐津市半田地先)【カルテ番号:K497A150】の切土法面を対象に学識経験者及び佐賀国道事務所職員による現地診断を実施した。対象箇所は令和3年8月頃の豪雨により法面の法肩付近の一部が崩壊した箇所である。また、法尻付近では押し出しや湧水が長期間にわたり継続している。当該診断では、当該箇所の現時点の健全性、将来の安定性及びそれらを踏まえた対応策等について、現地の状況を詳細に把握するとともに、学識経験者等による有意な意見を聴取し、防災・維持管理上の課題解決の場とした。

出席者:九州大学 石蔵准教授

● テックドクターによる診断

【法面について】

- ・植生工で保護された切土法面であり、表層にはマサ化した花崗閃緑岩や崖錐堆積物が分布する。
- ・当該法面は旧谷部を切土しており、集水地形となっている。
- ・2段切土部のうち、崖錐堆積物が分布する法面上部において表層崩壊(崩壊深:約1m)が発生している。
- ・また、崩壊箇所下部の法尻付近において、法尻部の押し出しや旧谷部からの湧水などが確認される。

【対策方針等について】

- ・表層崩壊対策として、法面補強対策の検討が必要である。
- ・対策工の設計に際しては、ボーリング調査を行い、変状発生要因等を詳細に検討することが必要である。
- ・「カルテ対応箇所」から「要対策箇所」へランクアップする。

